

# 巻頭言

Kan・Tou・Gen

## 『琵琶湖で遊ぶ』

オプテックス株式会社

代表取締役社長 小林 徹

(財団法人 淡海環境保全財団理事)

カヌーによる琵琶湖一周。もうかれこれ5年以上も前になりますが、楽しく懐かしい思い出が一杯つまっています。雨上がりの早朝のモヤの中を、奥琵琶湖の景観や風情を満喫しながらパドリング、竹生島を一周した時の神秘的な様子、鏡の様な湖面にパドルのつける音しかない心地良さ、強風のもとカヌーを超えてゆく波の怖さにおののいたこと、等々…。

また、オーパルの仲間達や息子とは、今までに3回、琵琶湖一周を完漕しました。

土曜、日曜の1泊2日で琵琶湖の行程を50km程進み、それを3度程しますと、だいたい琵琶湖を1周できます。そうすると、春・夏・秋、各々の琵琶湖の表情や水草などを、直に手に触れて感じる事ができます。例えば、春先5月の連休明けには、代掻きの濁水がいかに琵琶湖に流れこむかを湖水の境目によって知らされたり、一旦風が吹き始めるとこんなにも前進するのが困難になるものかと実感したり…琵琶湖の持つ偉大さの深さを感じずにはいられません。

カヌーなどは、特別な訓練やスキルがないと出来ないのでは？と思われるかもしれ

ませんが、運動量としてはウォーキング程度ですし、その位の力でも歩くよりは早く進みますので、1日5〜6時間の漕ぎで、2日間で50kmに達することができます。このように、どなたにでも取り組める体験ですから、できる限り多くの方に琵琶湖を感じていただけたらと願う次第です。

オーパルでは、滋賀の未来を担う子供達に『湖の子』による体験に加えて、『雪国で育った子供はスキーができる？』と同様に、琵琶湖を『体験』し、『楽しむ術』を学び、『思い出作り』をして欲しいとの思いから、年間5、000人を超える子供達にカヌーやドラゴンボートの試乗をオプテックス支援のもと行っています。

昨今の子供達は泳ぐのもプールが多く、琵琶湖といっても車窓から眺めるだけのものになっているのではないのでしょうか？

やはり、我らの地域にこれだけの資源があり、それらを活かした教育、地域特性を活かした教育をすることが、地域を愛することに繋がり、そのことが琵琶湖に対する愛着、ひいては環境問題を考えるきっかけになると思うのですが如何でしょうか？